

グローバル通信

2008 vol.9

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

風薫る緑の季節となりました。今年度第1号(春季号)のニュースレターをお届けします。

晴れて11名の方が修了され、新たな人生へと巣立たれましたが、その後、今年もフレッシュな院生9名を迎えることができました。

本コース開講以来、はや6年が経過して、これまで数多くの修了生を送り出してきました。これを機に、終了生有志の呼びかけでOB/OGネットワークが結成されました。社会の第一線で活躍されている修了生の多彩な知見を共有する“ひろば”ができたことを喜びたいと思います。

本年度はGP(大学院教育改革支援プログラム)の採択による新規事業が本格的に展開されます。地域公共人材の専門職業人を育てるコースとして、いっそうの発展をめざしています。(編集部)

『忠恕』をキーワードに 一公・共を担う職員育成への挑戦—	1
バイエリアのNPOインターンシップの魅力	1
入学おめでとう	2
修了おめでとう	2
NPO地方行政研究コースOB/OGネットワーク設立	3
春合宿記	3
GPインフォメーション	4
事務局インフォメーション	4



『忠恕』をキーワードに 一公・共を担う職員育成への挑戦—

海東 英和氏 (滋賀県高島市長)

高島市は合併4年目に入りました。行財政の交通整理も一定できつつあります。

サムライ職員、実直職員、温厚職員などのタイプはあるにせよ、郷土を愛し、奮起してくれた人財が多く出現しました。議会とは正面から議論をし、市民の皆さんとは情報公開度を高め、市民参画と男女共同参画の機会を増やし取り組んできました。

合併直後は、旧町村から引き継いだ事業をその内容の確認や全体の優先順位も整理しないままに進めようと躍起になる状況がありました。自治体財政も人口もベクトルが反対に向いたにもかかわらずです。私達はやや荒削りではありましたが、合併初年度に、それらを開かれた場で議論し、ニーズとウォンツを切り分けたり、何のためにするのか、実施主体は本来誰なのか等の確認をしていく「事業仕分け」を導入し、希望を見出す棚卸しを実行したことで道が開けたと考えています。

素晴らしい人財に共通することは、まず、変化にも正面から向き合う誠実さです。高島市の職員はその気質が極めて高いと感じています。これは「忠恕」に象徴される、高島市が誇る中江藤樹先生の良知のDNAがONになっているからかもしれません。雑駁ですが「忠」とは自分の良心に誠実であること。「恕」は思い遣りを実行することです。つまり、市役所職員である前に、人間としての道を踏み行えるよう、人格を高めていくことが最大のサービスの向上をもたらすという考え方です。同じ仕事をして喜ばれる人と、相手を不快にさせる人がいます。公・共サービスをどのような形で担うかを問いつつ、現実の仕事と生活の中で本物になっていくことが筋道だと考えます。

マニュアルでなく1人ひとりの内なる美しい心を発揮し、各々の使命を果たしていくことが生涯のテーマだと思います。合併記念の扇にある「忠恕」を大切に歩もうと20年度をスタートしました。

(注) 中江藤樹:江戸初期の儒学者。日本の陽明学派の祖で近江聖人と呼ばれた。高島市生まれで、今年生誕400周年をむかえる。



バイエリアの NPOインターンシップの魅力

柏木 宏氏 (日本太平洋資料ネットワーク(JPRN)アドバイザー/
大阪市立大学大学院教授)

ゴールデンゲートとケーブルカーという観光都市のイメージが強い、サンフランシスコ・バイエリア。

700万の人口のうち、白人50%、アジア系20%、ヒスパニック系20%、黒人をはじめとしたその他10%という数字が示すように、多様な民族や文化的な背景をもつ人々が暮らしている。人々の経済的な格差や価値観の違いも大きい。

民族的多様性や格差、価値観の相違の存在は、平均的な住民像を描くことを困難にさせる。住民の多数のニーズに対応するサービスの提供という行政の役割が機能しにくい社会、ということができる。このため、重要になるのは、NPOである。バイエリアのNPOは、約3万。日本のNPO法人の数とほぼ同じだ。

NPOは、多様なリソースを活用する。そのひとつがインターンである。日本太平洋資料ネットワーク(JPRN)も例外ではない。1985年の設立以来、現地の学生、日本からの留学生、そして日本でNPOなどに関心を持つ人々を受け入れながら、事業を実施してきた。NPO・地方行政コース(以下、コース)の松浦さと子先生も、大学院生時代にインターンとしてきていただいた。

アメリカでインターンシップというと、数ヵ月かけて関心分野の理解を深めるためにNPOの事業や運営にかかわることが多い。一方、日本では、1ヵ月未満という短期が9割を占める。JPRNが連携協定団体になっているコースの海外インターンシップの多くも短期型になるだろう。

「単一民族社会」の日本と異なり、多様性のあるバイエリア。そこで短時間で何が学べるのか、という疑問をもつかもしれない。だが、外国人労働者の流入や格差社会の広がり象徴されるように、バイエリアは日本の未来を映す鏡の部分もある。また、短期であっても、NPOへの視察やボランティア体験、地方議会の傍聴、行政やNPO関係者へのヒアリングなどを通じて、明日の日本を考える貴重なヒントをえられると思う。

JPRNは、こうした様々な活動を短期間で行うための受入体制を準備します。皆さんは、ヒントをえるための事前学習と意欲をもって参加していただければ幸いです。

入学おめでとう

入学おめでとうございます。

今年も多彩な経歴をもった新院生を迎えることができました。新院生を代表して3名の抱負と全員のお名前を紹介します。

未見の我を発見せよ

法学研究科 鳥居 良寛

満開の桜とともにいよいよ大学院に入学し、気持ちも新たに虚心坦懐、学問と向き合っていくと感じています。

私は大学生の時に地域公共政策について学んできました。その中で、それまでは思いもつかなかったような考えや出来事に沢山、出会ってきました。

その中でも常に自分の心の中に留め置くものとして、「マルチパートナーシップ」という考えがあります。卒業論文は、「農山村における農政」をテーマに取り組んできたのですが、やはりこれからは地域の課題に対しては、行政と当事者という2者間ではなく多様な主体がスクラムを組んで取り組み、協働する「マルチパートナーシップ」が重要であると強く感じました。大学院では「これからの公共政策のあり方とは」ということに主眼を置きながら、考え、行動できる地域公共人材になるべく、日々研鑽を積み重ねていきたいと考えています。

大学院生活は2年。そう考えても非常に短い、大学院の2年間に become と思えますが、今まで以上に吸収力を高め、一つでも多く、「未見なる我」を塗り重ねて成長したいと思っています。

得がたいチャンスに感謝

法学研究科 正木 隆之

50歳を超えての大学院入学。「十五で学に志す」と言った孔子が聞いたら、きっとびっくりすることでしょう。

しかし「奪われし未来」で環境ホルモンの問題を世に問うたコルボーン女史も50歳を超えてから大学院に学んだそうで、必ずしも若さが学問の必要条件とはいえないようです。もちろん体力や記憶力では若者に敵いませんが、唯一、学ぶことに対する目的意識だけは、30余年前の学生時代より明確になっていると自覚しています。

今回、院ではソーシャルキャピタルについて研究する予定ですが、それは学問のための学問や修士号取得のための学問でなく、個人と社会が豊かであるための実践的な学び、方便でありたいと願っています。そのことは、NPO・地方行政研究コースの掲げる「地域公共人材の育成」を自ら体現することにほかならないと思っています。

得がたいチャンスを与えて下さった龍谷大学の寛容に感謝しています。

セクターを越えて語り合うために

経済学研究科 矢杉 直也

数年前から、企業に勤める傍らNPOの活動を始めました。京都・西陣の機屋に生まれ育ちながら、その家業を継いでいけない状況に対して、自分の立場でできることを探るためです。しかし、伝統産業の問題は伝統産業だけの問題ではないことを痛切に感じてきました。そして、グローバル化と大量消費、大量廃棄の課題と向き合うために、持続可能なまちづくりや環境問題について考えるに至りました。

様々な課題を乗り越えて持続可能な社会を創っていくためには、企業のCSRとNPOをコーディネートする行政の役割が必要と感じ、1年前に行政職員に立場を移しました。まだまだ行政での経験は浅いですが、本学での研究を通して学術を身につけ、3つのセクターでの経験や縁を形にしていきたいと思っています。みなさんとの議論を通して楽しみながら学び、この1年を全力で走り続けたいと思います。

修了おめでとう

修了おめでとうございます。修了間際に開催された自主シンポジウムと合宿記とあわせ、OB/OGネットワークの発足についてお知らせします。活発な活動を期待したいと思います。

大学院教育がめざす地域公共人材への挑戦

——シンポジウムからみえたもの——

2008年3月8日土曜日、午後の日差しにまどろむ龍谷大学深草校舎で、『大学院教育がめざす地域公共人材育成への挑戦』というシンポジウムが開催されました。龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースに在籍する院生自らがコースの歩みを見つめなおすとともに、自分たちを含めた修了生が地域のためにできることは何かを示そうと目論んだものです。

当日は休日の午後1時半からという時間にも関わらず、大勢の皆さんにお越し頂きました。一般のお客様に交じり本コースの修了生や提携団体の方もおられ、これも大学院を媒介にした人的ネットワークの発露ではないかと感じました。



シンポジウムの前半は、地域を構成する団体がいま求めている人材について、「『公・共・私』が期待する地域を変える人材像」をテーマに、滋賀県草津市から政策調整部理事林田久充氏、箕面わいわい株式会社から代表取締役の日永田実氏、京都商工会議所理事の龍不可止氏をお招きご講演いただきました。林田氏は誘致開設した立命館大学びわこキャンパスとの地域連携を通して、多様な利害関係をもつ地域の中でそれぞれの意見を引き出し、それを読み違えないファシリテーターの重要性をお話いただきました。日永田氏からは、社会人としての基本である礼節、手を抜かない・ごまかさない・最後まであきらめない勇気、物事の本質や文脈を理解するための耳を傾ける能力、他人に共感するやさしさの4つの「チェンジリーダーとしての資質とマインド」をお教えいただきました。龍氏は、長年に渡る京都商工会議所での取り組み事例をご紹介頂き、そこから導かれた「協働」の考え方についての独自の視点をご提示いただきました。

3名の講師によるご講演はいずれも現場の経験に裏打ちされた深いもので、これから地域に戻り本コースでの経験を活かそうとする者にとって、重要な視座を提供していただきました。

休憩時間には、2007年度修了生の修士論文を拡大し壁面展示、院生自らが自分の研究テーマを来場者に説明しました。予想外に説明を求める来場者が多く、関心の高さに驚かされました。

後半は、「大学院が求めるものと求められるもの」と題し、コースの現状と課題そして成果をコースの中から考えるため、ユースビジョン赤澤清孝氏をコーディネーターにお招きし、現役院生、卒業生、教員によるパネルディスカッションをしました。教員代表で土山希美枝先生、修了生代表で長浜市職員の一居隆司氏、現役院生代表で前田考一氏がパネラーとなり、それぞれコースに期待して得られたもの、期待したけれど得られなかったもの、期待せずして得られたものについてお話いただきました。赤澤氏の巧みな進行とコースの本質に切り込む質問から議論は白熱、研究機関と現場をつなぐ方法、養成した人材を如何に現場に返すのか、返した人材と如何につながっていくのかなど、コースの将来像にとって有効な論点をあぶり出せたと思います。

シンポジウム終了後は、「謝恩の集い」と銘打ってレセプションが開催されました。コースのOB/OGネットワークの設立と合わせて、学長から祝辞も頂戴し盛大に催すことができました。院生、修了生、教員、ゲスト、観客の垣根を越えて交流できたと思います。

このシンポジウム開催には多くの方々の力が結集されています。実現に向けて集結した院生、快く講演をお引き受けいただいた講師の方々、観客として駆けつけてくださった修了生の皆さん、実行委員を励まし裏方に徹してくださった事務局の方々、院生の無理難題を受け止めてくださった先生方、そして本コースに関心を持ちご来場くださった来場者の方、本当にありがとうございました。自分の組織や地域の境界線を越え、自由に出入りできることは素晴らしいことです。その中で自分を磨くことができる環境こそ人材育成にもっとも必要なものであると、シンポジウムを終えて私は確信しています。

(経済学研究科 西川 嘉邦 2007年度卒業生)



2008年度NPO地方行政研究コース入学生

研究科		氏名	推薦団体
法学研究科	連携協定	二十軒起夫	(社)奈良まちづくりセンター
	連携協定	正木 隆之	(財)京都ユースホステル協会
	連携協定	不破 亨	栗東市役所
	連携協定	堀口 秀義	枚方市役所
	一般	鳥居 良寛	学部卒
	一般	橋詰清一郎	学部卒
経済学研究科	一般	田澤 歩来	学部卒
	連携協定	田中 貞昭	近江八幡市役所
	連携協定	矢杉 直也	京都市役所

■龍谷大学大学院NPO地方行政コースによるこそ



大林 稔

(前経済学研究科長)

私たちが目指すのは、上に立つ指導者ではなく、人々と共にあるリーダーです。私たちの大学院は、みなさんがそうしたリーダーとなる力を引き出すためにあります。世界の環境も、暮らしを取巻く制度も、大きな転換点にあります。これまで通りの暮らしはなにも保証してくれません。指導者や官僚機構に任せきっても、解決はありません。回答は私たちの中に、人々の中に眠っています。自分を呼び覚まし、答えを人々と共に作ってゆくのが市民リーダーの役割です。

大学院では、地に足をつけると同時に、心を開き自分を変えることを恐れてはなりません。これまでの人生をしっかり踏み据え、養ってきた人間としての能力を200%活かしてください。そして、いままでの考えの枠を破り、新しい知識とプロの研究手法を学んでください。そうすれば、大学院を修了したとき、世界はみなさんに新しい姿を現してくれるでしょう。

■継続は力なり



脇田 滋

(前法学研究科長)

卒業おめでとうございます。

自分でテーマを見つけ、先行研究を調べ、視点を確定して一つの論文に仕上げることは、やり甲斐のあることですが、実に難しいことです。この難しい作業をやり遂げて修士論文を完成させ、立派に卒業された皆さんに心から敬意を表します。

私は派遣労働問題に長く取り組んできましたが、常に現場に戻って発想することを心がけています。20年間、派遣労働を美化する政府や一部学者の議論が支配的でした。違和感があっても、反論するのは至難のことでした。しかし、派遣労働者から直接相談を受け、その声を蓄積して、派遣労働の現実を論文で具体的に示す努力をしてきました。最近の1、2年、派遣労働の弊害を是正する法改正が現実化してきました。最初は少数説でも継続すれば大きな力になります。

修士論文で考えたことを大事にし、考え続けて下さい。現実を踏まえた議論であれば、必ずや大きく発展し、受け入れられる時が来ると思います。

NPO地方行政研究コースOB/OGネットワーク設立

NPO・地方行政研究コースは、「共生(ともいき)をめざすグローバル大学」の一環として、地方自治体や市民活動など分権社会において活躍する高度専門的な資質を有する人材を育成することを目的として、2003年4月に開設されました。

このコースの特徴のひとつに、NPOや地方自治体で働く院生が、1年間という限られた大学院生活の中で、「学び」という貴重な経験を通して、「仲間意識のネットワーク」を構築することがあります。

この「仲間意識のネットワーク」は、今までの各年の卒業生単位に構築されており、仕事や活動など様々な分野での双方向でのアドバイスや提案を可能にしています。しかし、各年単位の「仲間意識のネットワーク」を縦に繋げる「しくみ」がなかったため、「卒業生全体のネットワーク」の構築には至っていない状況でした。

そこで、昨年が本コースの5周年を迎える節目の年でもあり、今までの卒業生が醸成されてきた各年の仲間意識のネットワークを縦に繋げるしくみとして、「NPO・地方行政研究会コースOB/OGネットワーク」を設立し、新たに卒業生全体のネットワークを構築しました。

初年度の活動としては、自主シンポ終了後に設立総会を開催し、各年の卒業生の交流を図るとともに、OB/OGネットワーク名簿を配布し、卒業生全体で情報を交換できるしくみづくりに取り組みました。

このOB/OGネットワークが、地域社会で活動する人材のネットワークとなり、それぞれの地域社会で活かされるとともに、地域社会と地域社会を結ぶ大きなネットワークになることを期待しています。

(法学研究科 栗田 豊一 2007年度卒業生)

合宿記

1年間の大学院生活の締めくくりとして、3月22日、23日の2日間、合宿として奈良市、桜井市、明日香村を訪問しました。1日目は、本コースOB(財)奈良まちづくりセンターの室理事長に奈良町界隈をご案内いただき、まちづくりの経緯やセンターの取り組みについてご講演いただきました。旧元興寺境内の町並みは、寺社や銭湯、商店等古く趣がある建物が多いだけでなく、人々の生活の場としての空間と調和しているところが魅力的に感じました。夕食をとった「まんぎょく」も、元来芸者小屋で、建物の作りも当時の生活感を色濃く映し出していました。ツアー客が殺到する「観光地化」を避け、住民の生活としての場を尊重し、奈良町愛好家がリピーターとして来てもらえる場所であり続けてほしいと思います。

2日目は、桜井市を訪問し、森とふれあう市民の会の川端氏と(株)中尾組の中尾専務に、桜井市における観光、景観関連のまちづくり事業についてご講演いただきました。桜井市では、行政の働きかけではなく、青年会議所が中

心になってまちづくりが行われ、大きな成果を上げていることを知りました。一方で多くの観光資源があるにも関わらず、大型バスを止めるスペースがないこと、木材産業の衰退で材木屋の跡地に大型商業施設が進出し、その看板が三輪の景観を損ねている等の課題もあり、地元企業も巻き込んだ道の駅事業での活性化や、景観行政団体として県だけでなく市も積極的に取り組む必要性を感じました。

最後は大神神社へ参詣の後、私の地元である明日香村の石舞台古墳を訪問し解散となりました。3月の繁忙時期ということもあって参加者減少で一時は合宿ができるか心配しましたが、まちづくり実践の貴重な収穫とともに終了できてよかったです。公私多忙の中、案内や場所の提供にいたるまで協力して頂いた3氏、講師紹介に協力いただいた新井氏に感謝いたします。ありがとうございました。

(経済学研究科 木田 学 2007年度卒業生)



■「地域協働教育トライアル」ワークショップを開催

今年2月21、22日の2日間にわたって、「地域協働教育トライアル」ワークショップが立命館大学地域研究交流拠点「協働ラボ・うじ」で開催されました。

本ワークショップは、地域社会の各分野を横断して「地域公共人材」の育成をはかる「地域協働教育」の仕組みづくりをめざして、NPO・行政・企業等の構成員の参加による出会いと相互理解の契機となることを趣旨とするもので、龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースを中心とする、大学3校、自治体4団体、NPO3団体、経済2団体からなる実行委員会によって企画・運営されました。

1日目は、まず、富野暉一郎先生から「協働型社会における行政の役割について」をテーマに基調講演をしていただきました。その後、ワークショップが開かれ、参加者は5グループ（各6～7名からなる）に分かれて、それぞれ3つのテーマ——①山城生活圏を考える（その共通課題と地域連携の取り組み）、②少子化時代と地域社会、③安心・安全な地域社会をどうつくる——から1つを選び、ディスカッションがすすめられました。

2日目は午前中のディスカッションの後、各グループから、話しあったことのまとめを発表していただきました。参加者数は実行委員、ファシリテーター等を含めると、2日間とも総計45名を超え、会場は活況を呈しました。

ワークショップ終了後、参加者の方々からは「ワークショップをとおして『協働』の意義を確認できました」「お互いの意見を話し合い、共有の考え方や課題を持つことができたので、いろいろな見方を深めることができました」「大学が参加することによって、客観性・論理性（考え方の筋道）が整理されました」「『地域協働トライアル』という今回の発想がどうして行政機関から発信できないか残念に思います。今回は唯一の機会で大いに良かったと思います」といった感想や、たくさんの方から「是非、今後も定期的に続けて欲しい」との要望をいただきました。

特に学生にとっては、社会で活躍する様々な業種の方と意見を交換することにより、広く社会に開かれた学習の機会が得られ、見識を深める好機となったようです。なかでも、社会で実際におこっている様々な具体事例に関する話し合いは、これまで「地域活性化」といった課題に「理論」的に取り組んできた彼らにとって、多いに刺激となり、また、あらためて「理論」と「実践」を架橋することの重要性を認識する契機となりました。

尚、今年度は後期に京都中部、北部地方を対象に、前回同様「地域協働教育トライアル」ワークショップを実施する予定です。

■地域環境資源のデータベースを作成

昨年より、NPO・地方行政研究コースでは大学院教育改革支援プログラムの事業の一つとして、環境管理システム論を進めてまいりました。このプロジェクトは、環境政策形成能力の向上を目的とし、具体的には自治体レベルでの政策形成を念頭にしております。

また、PEGASUS（生存のための公共的横断型システム）研究会に業務委託を行い、京都府内のバイオマスなどの地域環境資源のデータベースを作成しました。次に、文部科学省リーディングプロジェクトの研究員として分散型エネルギー利用システムの開発を担当された重藤さわ子氏のコメントを紹介します。

PEGASUS「分散型エネルギー利用塾」の開発

元東京農工大学 重藤 さわ子
（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター アソシエトフェロー）

地方・農村地域の活性化対策は、第二次大戦後、長期にわたって、エネルギー多消費型の都市的ライフスタイルにいかにも追従するかを中心テーマとして、進められてきました。その結果、石油や電力がふんだんに供給されることとなり、かつて地域で使われていた様々な有効なエネルギー資源は放置され、使われ

ないまま眠っています。しかし、温暖化対策が急務の課題となり、非化石燃料依存の生活に切り替えていかねばならない現在、地方、特に農村地帯に広範囲に存在するバイオマス・自然エネルギーの利用を再度実現することが不可欠の課題となっています。そのためには、住民や自治体関係者等の広範囲な理解に基づく合意形成が必要です。そこで、東京農工大学、文部科学省リーディングプロジェクト「一般・産業廃棄物・バイオマスの複合処理・再資源化プロジェクト」プロセスグループ（リーダー：堀尾正鞠東京農工大学教授）は、その研究の一環として、地域における資源の発見ツール（地域のあるもの探し）と、それら資源の有効利活用に関する評価機能を持ち合わせた「PEGASUS分散型エネルギー利用塾」の開発を行いました。本開発では、システムを、専門家だけでなく、誰にでもバイオマスの有効性を認識してもらい、エネルギー自給のために自由なアイデアを持ち寄って評価してもらえるものにするために、さまざまな工夫を凝らしてきました。これから色々な人々に意見をいただきながら、改良を重ねていく必要があります。このシステムの改良と普及を通じて、地域資源の有効利活用と脱温暖化対策を、誰もがどこからでもできるようにし、地域の人々の寄り合いで真剣に考えていただける「場」を提供し、地域に根ざした脱温暖化社会へ向けて、大きな一歩を踏み出したと考えております。

■事務局 インフォメーション

●2009年度4月入学 大学院入学試験案内

■一般・社会人入試（秋期）入学試験

出願期間：2008年8月19日（火）～26日（火）

試験日：2008年9月20日（土）

合格発表：2008年10月3日（金）

■一般・社会人入試（春期）入学試験

出願期間：2009年1月12日（月）～23日（金）

試験日：2009年2月21日（土）

合格発表：2009年2月27日（金）

●2009年度4月入学 NPO・地方行政研究コース
 地域協定団体推薦入学試験案内

事前審査受付 2008年10月10日（金）～10月16日（木）

事前審査結果発表 2008年10月31日（金）

※協定先所属団体長及び本人宛に配達記録・速達郵便にて通知

本選考受付期間 2008年11月10日（月）～11月17日（月）

試験日 2008年11月29日（土）

合格発表 2008年12月12日（金）

●NPO・地方行政研究コース連携協定団体に関わる日程

連携協定先との懇談会（入試説明会） 2008年7月中旬～下旬

推薦入学者のための入学前ガイダンス 2008年3月上旬～中旬

●「地域リーダーシップ研究」「先進的地域政策研究」
 前期講演予定

2008年5月24日（土曜日）

・地域を支える図書館づくり（講師/渡部幹雄・滋賀県愛荘町教育長）

2008年6月21日（土曜日）

・水源の里再生と限界集落サミット（講師/四方八洲男・綾部市長）

2008年7月7日（月曜日）

・大学と地域社会 —アメリカ ポートランド市の取り組み—
 （講師/スティーブ・ジョンソン ポートランド大学教授）

NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻9号 2008年5月

発行／龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース
 連絡先／学部（深草）
 TEL：075-645-7891 FAX：075-643-5021

H P／http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
 編集／大矢野修、松浦さと子、土山希美枝（編集補助）藍澤ゆかり、西原京春、定松功、朝倉健太
 印刷／株式会社 田中プリント